



秋の七草の「オミナエシ」に
挑戦するかのようには開花する植物

「オトコエシ」

ときがわの
草と木 126



酷暑の夏が、やっと去っていく気配が感じられるこの頃です。例年だと8月の「旧盆」を過ぎる頃には「秋らしくなってきたね」との挨拶が交わされるころですが、ここ何年かはまた夏のぶり返しかと気をもませるような日々の繰り返しです。植物の世界はというと、夏から秋の種類へと入れ替わる時季ですが、熱気に抑えられてか元気をなくしているようです。しかし、少し高い所に行くともうすっかり秋です。昭和の時代だったら、山へ行けば必ず秋の七草などの植物に出会えたものですが、今はやっと「ハギ・ススキ・クズ」などを見かけることができるくらいで、「あの頃の秋はどこへ行ってしまったのか」と寂しさが募るばかりです。そこで今月は、陰ながら秋の植物界を支えている植物の一つ『オトコエシ』について書いてみたいと思います。

(ちなみに秋の七草とは「ハギ・ススキ・クズ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ・アサガオ(キキョウ)」のことです。)

『オトコエシ』は、オミナエシ科の多年生植物で、日本各地の日当たりやよい山野に自生しています。形状は茎は直立し、高さ1m余になります。全体に荒い毛が生え、葉は羽状に分裂して、中央の裂片が最大の卵状楕円形をしています。各葉は、対生しています。夏には、株の根元からつるの枝を伸ばし、地面に接した葉柄の付け根の所から根を出します。そして、新しい株を作り繁殖を繰り返します。晩夏から秋にかけて茎の先端から複数の散房花序を伸ばし、淡白黄色の小花を多数咲かせるといふものです。

名前の『オトコエシ』は、形状が同じ科の『オミナエシ』に似ているところから来ているようです。『オミナエシ』とは、「オミナニ美女・えし」小粒で可愛い」で、「女性を連想させるような可愛い花を咲かせる植物」ということから呼ばれるようになったということです。漢字では「女郎花」と書きます。これに対して『オトコエシ』は「男郎花」と書き、「男郎」とは女性の様に振舞う男性のことをいうとか…つまり生態は『オミナエシ』に似ていて、草全体に刺に近い剛毛が生えているところを男性的と見て、「オトコ」という言葉を頭につけ『オトコエシ』と名付けたということです。この植物には「オトコメシ・ボンバナ(盆の頃に開花する花)・シロアワバナ」などの俗名もあります。また中国では、この花を花瓶に挿して置くと、醤油の腐ったような臭いがすることから「敗醬」と呼ばれています。生活との関わりは、昔から救荒植物とされ、この植物の根張りの強さが土地を土砂崩れ等の自然災害から守り、飢饉の時には摘み草として食べたともいわれています。

今年も、秋の花が堪能できる時季がやってきます。夏の酷暑にいじめ抜かれた体や心を癒すために、秋の花に親しむことも必要なのではないかと思えます。

(写真と文 大字本郷 小林 一公さん)

編集局通信

9月7日頃のことを「白露」と呼び、朝になると草花に朝露が付き始める時季の事をさすそうです。ようやく暑かった夏から秋へ移り変わる時季です。さて、今月号では、「もりんど」の「第12回都幾川で川遊び」や川のまるごと再生プロジェクトにより完成した「ときがわ水辺の道」といった「川」の話題をお知らせしました。取材する中で、川の自然を楽しむ元気な子どもたちの姿が印象的で、この美しい財産を大切に守っていきたいと感じる瞬間でした。(F)

広報メモ

合併10周年記念事業 映画「じんじん」の上映会を開催します。心あたたまる「親子の絆」の物語。ぜひ、ご覧ください。

日時 9月24日(出) 14時
場所 文化センター大ホール
※前売券販売中(文化センター、都幾川公民館等にて販売)
大人 1,000円
高校生以下 800円



広報ときがわ【第128号】平成28年8月26日発行
編集・発行 ときがわ町総務課
〒355-0395 埼玉県比企郡ときがわ町大字玉川2490番地
TEL0493-65-1521(代表) FAX0493-65-3631
ホームページアドレス <http://www.town.tokigawa.lg.jp>
メールアドレス info@town.tokigawa.lg.jp

ときがわ町の位置
東経139度 北緯36度
海拔64m 面積55.90平方メートル



人口と世帯 (8月1日現在)	
総人口	11,712人(-12人)
男	5,898人(-4人)
女	5,814人(-8人)
世帯数	4,708世帯(+2世帯)
※()は前月比。	

防災行政無線テレホンサービス(無料) TEL080-0800-8432

